

2023 年 11 月 15 日

愛知東邦大学学長の業績評価の結果について

学長選考会議

愛知東邦大学は、「学長候補者選考規程第 5 条第 2 項第 3 号」に規定する学長の業績評価を「学長の業績評価に関する実施細則」（以下「実施細則」という。）に基づき、鶴飼裕之学長の業績評価を学長選考会議の下で実施した。

以下、その学長の業績評価の概要を報告する。

1. 業績評価の実施方法

学長の業績評価は、実施細則第 5 条に基づき、鶴飼裕之氏が学長に就任した 2021 年 4 月から 2 年を経過した後の 3 年目の 2023 年度に、実施細則第 3 条各項に定める①学長の自己評価、②監事による監査結果のほか、③学長選考基準、④学長の所信表明書、⑤自己点検評価報告書（外部評価を含む。）および⑥事業報告書を資料として行うとともに、学長へのヒアリングおよび監事への聞き取りを行う方法で実施した。

2. 業績評価結果

鶴飼学長は、学長就任以来「愛知東邦大学長期ビジョン」を基本方針として「第 3 期中期 5 カ年計画」に基づき、教育システムと学生支援体制では、教養教育システムの構築、コロナ禍におけるリモート教育の整備・導入と対面とのハイブリット型授業への展開、Student Commons の開設を実現した。また、学部・学科再編の内容を決定し、申請準備に取り組んだ。

研究と社会貢献では、学内研究推進経費制度の導入、産学連携活動の推進、地域連携活動の充実、3 学部横断による産学連携「幼児向け知育玩具“ジナゾルプロジェクト”」を実施した。

国際化では、国際交流センターの設置、中国からの留学生受け入れ事業、海外大学との協定締結を積極的に進め、研究者交流を推進し、コロナ後の海外研修の再開に取り組んだ。

大学運営では、教学マネジメント本部を設置し、教学システム改革、キャンパスマスタープランの策定をした。

これらの取組を踏まえ、全体として優れた実績をあげていることを確認した。また、高大接続では、東邦高校との高大連携イベントを継続的に実施、スポーツ推薦枠の拡大や東邦高校への積極的な大学施設の開放など多面的なプロモーションによる東邦学園 ONE TEAM 構想の実現を行ったことについては評価できる。

3. 学長への要望および期待する事項

- ・教育において競合する他大学との差異化と特色化を行い、大学の魅力づくりに期待する。
- ・研究および地域貢献は、大学の存在価値が高まるような研究の推進、地域貢献の価値が非常に高くなっているため、今後も地域貢献活動の推進を継続されることを期待する。

- ・ 学生募集は、わずかな定員割れでも状況を正確に把握し、ブランディングによる認知度を高め、問題意識を持って回復に尽力することを期待する。
- ・ 高大接続は、問題意識の共有を図った上で学園一体となって教育および特色づくりを行い、高大連携による成果を期待する。
- ・ 社会人が学び直すリカレント教育の一環として、大学院設置および知のプラットフォーム構想の実現を期待する。

4. 業績評価に係る資料一覧（主なもの）

- (1) 愛知東邦大学学長候補者選考規程
- (2) 愛知東邦大学学長の業績評価に関する実施細則
- (3) 学長選考基準
- (4) 所信表明書
- (5) 自己点検評価書
- (6) 東邦学園長期ビジョンと第三期中期 5 カ年計画
- (7) 2021, 2022 年度学校法人東邦学園事業報告書
- (8) 愛知東邦大学ガバナンスコード
- (9) 学部学科再編構想
- (10) 愛知東邦大学知のプラットフォーム構想

以 上